

令和元年6月20日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04304

研究課題名(和文)ドイツの移民の背景を持つ子ども達のための参画アプローチの実際と課題に関する研究

研究課題名(英文) A Research on the Practice and Related Issues of Participative Approach for Children with an Immigration Background Attending Preschools in Germany

研究代表者

船越 美穂 (Funakoshi, Miho)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：80263987

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的はドイツの保育施設における移民の背景を持つ子ども達の参画について、幼児教育カリキュラム、保育実践、教材、保育者研修等から検証することを通して、その効果的な支援方法と課題を明らかにすることであった。ドイツの保育施設でフィールドワークを行い、子ども達の参画が多様性の教育によって根拠づけられていること、ドイツ語学習の支援が子ども達の参画を保障し、移民の統合政策と密接な関連を持っていること、子ども達の参画は保育者自身の子ども観の省察によって始まること、移民の背景を持つ保護者への支援が親と子どもにも効果的に働くこと、家庭から園への移行期の支援が子ども達の参画に影響を及ぼすことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では外国にルーツを持つ子どもの不就学問題への対策が喫緊の課題となっており、本研究の中で就学前の子ども達対象のドイツ語支援の実際について明らかにしたことは社会的意義があったと言える。特にバイエルン州の就学前の子ども達対象の「準備コースドイツ語240」の実践を観察し、関係者へのインタビューを行い、観察シートSismikとSeldakとの関連性の中でドイツ語支援の特徴を明らかにしたことは学術的意義があったと考える。さらにドイツの保育者研修を参与観察することによって、研修内容の特徴と保育者の意識を明らかにし、子ども達の参画との関連の中で分析したことも学術的に意味があったと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to understand effective support and related issues for the preschool participation of the children with an immigrant background in Germany. The study especially considers curricula, teaching materials, and in-service training program for teachers. The present field study in German preschools has revealed that the participation of such children was based on the underlying diversity education. The study also found that the German language education, which is closely linked with the integration of immigrant policy, guaranteed children's participation. The study also revealed that such participation is initiated by teacher's view of the children. This research draws on the findings of a study that looked at the effects of supporting the guardians of children with immigration background, and the effects of supporting the children and their guardians with immigration background, who are under the transition period from family care to preschool care.

研究分野：幼児教育学

キーワード：参画 保育施設 権利 多様性の教育 ドイツ語 保育者研修 保護者 移民の統合

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「子どもの権利条約」(1989)が国連で決議されて以来、児童期以上の子ども達の身近な環境ケアへの参画(ロジャー・ハート 2000)だけでなく、乳幼児教育分野においても子どもの参画が意識化されるようになった(OECD 保育白書 2011)。ドイツでは子どもの権利条約批准後(1992)、ただちに国家及び州レベルにおいて教育に関する法規が改定され、子ども達の参画する権利が法的に規定された(船越 2013)。さらに連邦州ごとに出されている幼児教育カリキュラムも参画アプローチが土台となっている(幼児教育のための各州の共通大綱 2004)。保育施設では幼児教育カリキュラムに基づいて、参画を促すためにオープン保育、プロジェクト活動、さらに子ども会議などの実践が行われている(船越 2012、2013、2015)。

一方、急速なドイツの多民族化によって、保育施設にはドイツ語を母語としない園児が多数在籍している。ドイツ語能力の差異は就学期における学力格差につながるだけでなく、将来の社会参画に多大な影響を及ぼす。ドイツでは 2000 年の PISA ショックを受けて、就学前の子ども達の言語教育に重点的に取り組んできた(小玉 2008、中西 2015)。ドイツ連邦 16 州ではその特徴は様々であるが、ほぼ共通しているのは、就学前の言語支援コンセプトでは、日常に統合されたものと、付加的なものに区別されていることである(Lisker 2013)。つまり、保育施設の日常生活の様々な活動や遊びの中で言語支援を行うことを基本にして、言語的に特別に支援の必要な主として移民の背景を持つ子ども達を対象に、補償教育的な意味合いの言語支援プログラムを提供している連邦州が多い。

筆者はこれまでドイツの保育施設における参画について幼児教育カリキュラム、及びフィールドワークによって収集した実践事例の中でその実際や特徴について明らかにしてきた。しかし、ドイツの保育施設の多文化化を鑑みると、移民の背景を持つ子ども達を観点にして参画を捉えていくことが必要である。また、子ども達の育ちを支援する立場の保育者、さらに保護者の観点からも参画の問題を捉えていくことも必要である。

2. 研究の目的

本研究では、ドイツの保育施設における移民の背景を持つ子ども達の参画の実際と課題について明らかにすることを目的とした。具体的には幼児教育カリキュラム、ドイツ語支援、保育者研修、保護者支援、家庭から園への移行の観点から、子ども達の参画の内実と課題を明らかにすることを試みた。

3. 研究の方法

ドイツのバイエルン州及びシュレースヴィヒ=ホルシュタイン州の幼児教育カリキュラム等の関連文献の調査を行った。

バイエルン州及びシュレースヴィヒ=ホルシュタイン州を中心に複数の保育施設でフィールドワークを行って、保育実践事例を収集するとともに、保育関係者にインタビューを行った。

ドイツの保育者研修会を参与観察し、参加者にインタビューとアンケート調査を行った。また、移民の背景を持つ母親によるサークルを参与観察して、インタビューを行った。

定期的に日本の保育者研修の場で研究成果を発信することによって、日本の保育実践に還元できるように研究を推進した。

4. 研究成果

(1)子ども達の参画は多様性の教育との関連の中で捉えられる

子どもの権利条約(1989)、サラマンカ宣言(1994)を経て、国連障害者の権利に関する条約(2006)をドイツが 2009 年に批准して以来、インテグレーションの発展として、教育の場にインクルージョン理念が導入された。インクルージョン理念の自覚によって、保育施設における子ども達の多様性への教育にも意識が向けられ、すべての子ども達が日常の保育に参画するという目標が共通理解されるようになった。具体的には、様々な年齢の女兒と男児、ドイツ人の子ども、移民の背景を持つ子ども、障害を持つ子ども、高い発達リスクを持つ子ども、ギフテッドな子どもが可能な限り、同じ教育施設に通って、共同の生活と学習を経験することがあらかじめ考慮に入れられた(3歳未満児の陶冶、訓育、養護 - バイエルン州幼児教育計画指導要領)。

対象者をすべての子ども達とすることによって、保育施設において多様性への配慮が求められることになった。その結果、子ども達の参画を尊重する保育施設では、オープン保育が主流となってきている(船越 2013、2015、2016、2018)。オープン保育では、一人ひとりの違いを尊重し、発達を促進するために、保育施設を内的分化していく必要があると考えられている(船越 2016)。例えば、筆者がフィールドワークを行った S 総合保育施設では生後 9 週間から就学期までの異年齢の子ども達がクラスを形成している。子ども達は自由遊びの時間には遊び場所と遊び相手を自由に選択することができる。保育者による提供活動の時には、同年齢グループ、少人数グループなど、子ども達のニーズに合わせてグループが構成される(船越 2016)。保育施設における内的分化が子どもの違いに応じた保育者の援助を可能にし、多様性の教育を実現させていることが明らかとなった。

「バイエルン州教育指針」によれば、「参画(Partizipation)と共同-構築(KO-Konstruktion)は、インクルーシブな多様性の教育が発展し、その可能性が展開することのできる最善の枠組みを提供する」としている。幼児教育カリキュラムと保育施設でのフィールドワークによって、ドイツの保育施設における子ども達の参画が、多様性の教育との関連の中で捉えられていることが明らかとなった。

(2)ドイツ語学習の支援が子ども達の参画を保障する

バイエルン州幼児教育計画(BEP)では、言語能力は学校と職業上で成功するための前提であるとともに、社会的・文化的な生活への参画の条件であると捉えられている。言語能力は機能的でダイナミックな能力であるため、言語習得は対話の中で、関心のある出来事の中で行うことが前提である。また、非言語コミュニケーションも重要な言語発達の第一歩として受け止められている。移民の背景を持つ子ども達にとっては、二言語・多言語の尊重が言語能力発達の条件であると考えられている。

バイエルン州の保育施設では、移民の背景を持つ子ども達の言語発達に計画的に同伴し観察するために、観察シート Sismik が使用されている。また、バイエルン州では付加的な言語教育として、移民の背景を持つ子ども達のための「準備コースドイツ語」が実施されてきたが、2013 年から言語支援のニーズを持つドイツ語を母語とする子ども達も対象となった。研究では、観察シート Sismik、さらにドイツ語を第一言語とする子ども達のための Seldak の分析を行った。

Sismik と Seldak における観察場が、朝食、ごっこ遊び、自由遊び、話し合い、絵本観察などの日常の状況全体であることから、言語支援は子どもと保育者との信頼関係を土台として、日常に統合されて行うことが基本であることが明らかとなった。また、観察シート Sismik と Seldak は、保育者に観察視点の自覚をもたらす上で有効である。保育現場では、Sismik と Seldak を使って、保護者との定期的な発達懇談会を開いている。子どもの言語発達を保護者に伝え、家庭と連携して子どもの言語教育を促進していくためにも Sismik と Seldak のようなツールが必要である。

付加的な言語支援である、準備コースドイツ語 240 は 15 年余りの歩みの中で、移民の背景を持つ子ども達対象から、言語支援を必要とするすべての子ども達対象へと拡張された。ここには多様性の尊重と、インクルーシブ教育への対応の影響が見られる。準備コースドイツ語 240 は拡張されたが、子ども達の最善の利益を考えると、さらなる時間延長と小グループ化が現場では求められていることが、担当者へのインタビューによって明らかとなった。その実現のためには、すべての子ども達に幼児教育を受ける機会を保障すること、及びドイツにおいても深刻な問題となっている保育者不足の解消が必須である。

準備コースドイツ語 240 は移民、難民の統合問題とも密接に関連している。2013 年の準備コースドイツ語 240 の拡充、2016 年のバイエルン州統合法の制定、そして 2018 年の幼児教育法の改正という一連の流れを見ると、移民、及び難民の背景を持つ家庭出身の子ども達のドイツへの統合にとって、ドイツ語支援が鍵を握っていると捉えられていることが明らかとなった。

(3)保育者の子ども観の省察と保育者研修の役割

バイエルン州幼児教育計画(BEP)によると、子ども達の参画は同時に親、保育者集団の参画を要求する。つまり、大人と彼らによる他者との付き合い方は子ども達にとって常に模範であり、刺激なのである。BEP では保育施設の中に参画文化を醸成していくことを説いている。保育者集団の中で、園長のイニシアチブとマネージメントの元、多くのことは共同決議されねばならない。保育者集団における参画は、子ども達の参画にとっての基盤であると捉えられている。それは、保育者集団の中で、定期的に自らの教育的自己理解について省察し、教育活動を作りあげることが前提とする。つまり、保育者は自らの子ども観の省察をしなければならない。BEP では、「参画は自己の子ども観の反省によって始まる」と述べている。

保育者が自らの子ども観について省察し、新しい知識を獲得し、明日からの保育を構築するための機会として保育者研修のあり方が問われなければならない。筆者は 2016 年にドイツのバイエルン州、及びニーダーザクセン州の保育施設で開催された保育者研修に参加した。両研修に共通しているのは、参加者達のグループワークが中心であることだ。子ども達の参画の前提条件は大人達の考え方や関係性である。研修の受講においても決して受身でなく、終始主体性が求められた。バイエルン州の研修会は「オープン保育」をテーマとしており、参加者は様々な園に勤務しており多様な顔ぶれであった。ニーダーザクセン州の研修会は園内研修会という形で行われていたため、参加者は全員開催園の保育者達であった。研修テーマは「子ども達の参画」であった。

筆者が行ったアンケート調査で「研修で学んだこと」を質問したところ、研修テーマに関する「オープン保育」や「参画」のコンセプトや方法をあげた参加者が多い中、保育者の姿勢、考え方、自己省察、子ども観をあげた者もかなりの人数いた。保育者研修は保育者の自己省察の機会を与える。保育者研修によって保育者自身の子ども観を省察することが、子ども達の参画にとって重要であることを明らかにした。

(4)移民の背景を持つ保護者の参画は子ども達に影響を与える

子ども達による保育施設の日常への参画は、周囲の大人達の姿勢や関係性から大きな影響を受ける。とりわけドイツでの生活が長くない移民家庭の場合、親自体の不安や葛藤が少なくないと推察される。以上のような問題意識からミュンヘン市立 S 保育施設におけるドイツ語コースと交流の機能を併せ持つ異文化間対話サークルの母親と子どもへの影響について調査を行なった。その結果、母親は異文化間対話サークルで開かれている無料のドイツ語コースの受講によってドイツ語力を身につけ、職を獲得するケースが多いこと、そして母親の自信や交友関係の拡大は子どもの自尊心に良い影響を与えることがインタビューによって明らかとなった。

(5)家庭から園への移行期の支援と多言語絵本の効果

ドイツでは家庭から保育施設への移行に関する理論モデルとして代表的なものはベルリンモデルとミュンヘンモデルである。両者に共通しているのは、慣らし保育には必ず親が同伴すること、担当保育者

が援助を行うこと、親との分離に十分配慮することである(Becker-Stoll, Niesel, Wertfein 2014)。バイエルン州幼児教育計画においても、親-子ども-保育者による共同の移行克服が前提となっている。そして移行克服のために、親もまた「保育園、あるいは幼稚園の親になるための支援」を必要としていると捉えられている。ミュンヘン市教育スポーツ局は幼稚園新入園児対象の多言語絵本「ようこそ幼稚園」(Zintl 2007)を出版配布している。また、ドイツ連邦家庭、高齢者、女性、青少年省のホームページには親対象の多言語絵本「ようこそ私たちの保育施設へ」が掲載されている。どちらの絵本もドイツの幼稚園の日常を紹介する内容である。移民の背景を持つ子どもと親にとって、スムーズな移行のためにはまずドイツの保育施設の文化を知ることが重要である。多言語絵本はそのためのツールとして効果的であることを明らかにした。

2017年の時点でドイツの移民の背景を持つ住民は約1900万人にのぼった。これは全人口の24%に当たっている。つまりドイツではおよそ4人に1人が移民の背景を持っていることになる(ドイツ連邦人口研究所)。筆者がフィールドワークを行うため、しばしば訪れるバイエルン州の州都ミュンヘン市では全人口の43.1%が移民の背景を持つドイツ人や外国人である(ミュンヘン市統計局)。移民や難民の背景を持つ住民の増加によって、保育施設の役割はさらに大きく、責任は重くなってくるだろう。将来の共生社会の実現のためにも、幼児期からの参画は極めて重要である。多様性を尊重しながら、いかに普遍的な価値を保育施設において学ぶ機会を提供することができるかが問われている。この問題については、筆者の今後の研究課題としたい。

<謝辞>

本研究ではドイツのバイエルン州、及びシュレースヴィヒ=ホルシュタイン州の研究者、及び保育関係者に多くのご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

<引用文献>

OECD 編著(星三和子他訳)(2011)「OECD 保育白書-人生の始まりこそ力強く: 乳幼児期の教育とケア(ECEC)の国際比較」明石書店、255-256。

小玉亮子(2008)「PISA ショックによる保育の学校化 『境界線』を越える試み」泉千勢他編著『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店、69-88。

中西さやか(2015)「ドイツにおける就学前教育カリキュラムの改革動向 - 言語教育を中心として - 」『名古屋市立大学紀要第9巻』99-105。

船越美穂(2007)「ミュンヘンの幼稚園における異文化間教育の現在」『福岡教育大学紀要第56号第4分冊』113-121。

船越美穂(2012)「幼児期における民主主義への教育(II) 『バイエルン陶冶 - 訓育計画』における『参加』(Partizipation)の思想と実践」『福岡教育大学紀要第61号第4分冊』77-88。

船越美穂(2013)「幼児期における民主主義への教育(III) Willy-Althof-Kindergarten における実践」『福岡教育大学紀要第62号第4分冊』95-107。

船越美穂(2015)「幼児期における民主主義への教育() シュレースヴィヒ=ホルシュタイン州の保育施設における子ども達の参画 - 」『福岡教育大学紀要第64号第4分冊』153-162。

ロジャー・ハート(IPA 日本支部訳)(2000)「子どもの参画-コミュニティ作りと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際」萌文社。

Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen & Staatsinstitut für Frühpädagogik(2013): Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung. Berlin: Cornelsen.

Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen & Bayerisches Staatsministerium für Unterricht und Kultus(2012): Gemeinsam Verantwortungstragen. Bayerische Leitlinien für die Bildung und Erziehung von Kindern bis zum Ende der Grundschulzeit.

Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen & Staatsinstitut für Frühpädagogik(2010): Bildung, Erziehung und Betreuung von Kindern in den ersten drei Lebensjahren. Eine Handreichung zum Bayerischen Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung. Weimar/Berlin: verlag das netz.

Fabienne Becker-Stoll, Renate Niesel, Monika Wertfein(2014): Handbuch Kinderkrippe. Freiburg im Breisgau: Herder, S.60-61.

Kultusministerkonferenz, Jugendministerkonferenz (2004): Gemeinsamer Rahmen der Länder für die frühe Bildung in Kindertageseinrichtungen.

Lisker, A. (2013): Sprachstandsfeststellung und Sprachförderung vor der Einschulung – Eine Bestandsaufnahme in den Ländern. Expertise im Auftrag des Deutschen Jugendinstituts. München, S.7.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

船越 美穂(2019)「ドイツの保育施設における環境教育から何が学べるか」、平成 30 年度幼児教育研究部会報告書、福岡教育大学、42-48。

船越 美穂(2019)「バイエルン州の保育施設における言語支援の現在-観察シート Sismik、Seldak、及び準備コースドイツ語 240 を通して-」、福岡教育大学紀要第 68 号、49-62。

船越 美穂(2018)「ドイツにおける子ども達の参画を促す保育者研修の実際と参加者の意識が意味するもの」、福岡教育大学紀要第 67 号、107-119。

船越 美穂(2017)「ドイツから見える日本の保育風景」、季刊保育問題研究、新読書社、8-17。

船越 美穂(2017)「ドイツの保育施設における移民の背景を持つ子ども達の参画-言語教育を観点として-」、福岡教育大学紀要第 66 号、59-65。

船越 美穂(2016)「ドイツの保育施設における子ども達の参画-多様性の教育を観点として-」、福岡教育大学紀要第 65 号、73-84。

〔学会発表〕(計 7 件)

船越 美穂(2019)「ドイツの保育施設における価値教育に関する研究」、日本保育学会第 72 回大会、大妻女子大学(東京都千代田区)、(2019 年 5 月 4 日)。

船越 美穂(2018)「ドイツの幼児教育施設における子ども達の参画()-移民の背景を持つ子ども達の家庭から園への移行を観点として-」、日本保育学会第 71 回大会、宮城学院女子大学(仙台市青葉区)、(2018 年 5 月 13 日)。

船越 美穂(2017)「ドイツの保育施設における移民の背景を持つ母親達の参画-異文化間対話サークルの取り組みを観点として-」、日本教育学会第 76 回大会、桜美林大学(東京都町田市)、(2017 年 8 月 27 日)。

船越 美穂(2017)「ドイツの幼児教育施設における子ども達の参画()」、日本保育学会第 70 回大会、川崎医療福祉大学(岡山県倉敷市)(2017 年 5 月 21 日)。

船越 美穂(2016)「ドイツの幼児教育施設における子ども達の参画(III)」、日本保育学会第 69 回大会、東京学芸大学(東京都小金井市)、(2016 年 5 月 7 日)。

船越 美穂(2015)「ドイツの保育施設における子ども達の参画(II)-多様性の教育を観点として-」、日本教育学会第 74 回大会、お茶の水女子大学(東京都文京区)、(2015 年 8 月 29 日)。

船越 美穂(2015)「ドイツの幼児教育施設における子ども達の参画(II)」、日本保育学会第 68 回大会、椋山女学園大学(愛知県名古屋市)、(2015 年 5 月 9 日)。